

新潟県租税教育推進協議会長賞 佳作

税金の使い道

新潟県立長岡高等学校

二年 伊藤 陽菜子

私たちは普段生きていく上で当たり前前に税金を納めている。子供でも支払う消費税から、労働者の義務である所得税まで、様々な種類の税金がある。これらの税金はどのように使われているのだろうか。

まず、よく知られているところでは、公共施設やサービスの提供である。ゴミ処理場や交番など、私たちの生活になくてはならない施設が税金によって運営されている。また、社会保障費として、年金や医療、福祉に関する費用が多く使われている。超高齢化社会を迎えた日本では、このような費用がこれからますます大きなウエイトを占めるだろう。その他にも公務員の給与や学校教育など、私たちが納める税金によって社会は支えられているのである。

つまり裏を返せば、もし税金が無くなったら高齢者は定年を過ぎても働き続けなければならないし、莫大な教育費や医療費がかかるために子供を産むのを断念する家庭も

増え、今にも増して高齢化社会が深刻化するだろう。また、交番やゴミ処理などの運営がされないということは、日本の治安が悪化してしまうことが容易に想像できる。

しかし、私たち日本国民には、消費税減税などを求める人々が多くいる。もちろん、それは当然だと思う。品物を買うには安いに越したことはないからだ。

ところが、減税したところで社会がより生きやすいものになるかというと、広い目で見れば決してそうではないだろう。それは先に述べたように、様々な社会保障が、消費税をはじめとする税金から賄われるからである。

ただ、本当にこのままの税金の使い道で国民が納得するのだろうか。国の一般会計歳出を見ると、私は想像より防衛に関する費用の割合が大きいことに驚いた。自衛隊という職業がないと困る人がいるのは重々承知しているが、戦争放棄を憲法に明記している日本が、これほどまでに防衛という名の戦争に関わる事業を支援して良いのだろうか。それよりも、育児や教育などにより手厚いサポートをして、全国民が平等に生きていけるような、教育を受けられるような社会づくりの方が大切ではないだろうか。

高校生の私にはまだまだ難しい問題も沢山あり、私一人の力ではどうにもならないことだが、今回の作文を書くことで、社会を見直すことができた。これから、社会にもっと関心を持ち、自分自身はどう考えるかを大切にして生きていきたい。

長岡税務署長賞

税金とともに生きる

新潟県立長岡商業高等学校

三年 齋藤 陽香

はじめに、私は今まで税金についてあまり詳しく知りませんでした。しかし、作文を書くにあたって調べたとき、税金は「社会の基盤を支える重要な要素」だと知りました。私は税金が重要とされるのは公共の利益の実現のためだと思います。税収を活用して様々な公共サービスを提供することで、私たち国民の生活水準を向上させていると思うからです。だから、私たち国民から徴収された税金は私たちの生活を支えるサービスとして返ってくるのだと思います。私にとって一番身近な消費税も、年金、医療費、介護、少子化対策などに使われていると知り税金に対する向き合い方が少し変わりました。また国民は、税金を払うことで「税金を払っているのだから」と政府に対して公共サービスの提供などを期待し、政府はそれに対し国民からの信頼を得るために、サービスを提供する計画案を立て始めること

ができます。つまり、このような国民と政府の連携から社会全体の繁栄が進んでいくのです。

そして、私が目指している警察官は公務員で、税金を資金とし、業務を行っています。警察官は、社会の安定や市民の安全を守るために欠かせない職業です。税金から賄われる予算は、警察署や施設の維持・改善、最新技術や装備の導入、犯罪分析ツールの開発などに活用され、犯罪への対応能力を向上させているのです。私は、このように市民の安全を守るためにも税金が使われていると知り、税金の重要さは計り知れないと思いました。

最後に、税金とともに生きるということは、現在の私たちには当たり前のことです。そして、私たちが税金を支払うことは義務です。ですが、一部の税金の使い道しか知らない方々は、「税金の無駄遣い」とよく言います。税金についてあまり詳しく知らない方々にこそ、税金が私たちにしてくれるサービスについて知ってほしいです。一番身近な消費税は年金、医療費、少子化対策など。住民税は地域の基盤整備、教育環境の向上、社会福祉の支援、地域作りと文化振興、災害対策と安全保障など。これらだけでなく、他の税金も、私たちが暮らしやすくするために使われていることを理解して税金とともに生きていきたいなと思います。

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

日常に溶け込む税

新潟県立長岡高等学校

二年 藤岡 伶瑳

税金の用途と聞いて真っ先に思い浮かんだのが、国会中継で居眠りをしている議員と、そんな人に対して、たびたびSNSで「あんな人たちに税金を納めたくない！」などと憤りを示している人たちだ。果たして私たちが納めた税金は正しい使われ方をしているのだろうか、と不安になってしまう。

一方で、個人的には「コンビニで商品を買うとき必ず付加されるもの」、「社会人となって働くようになる」と、給料から所得税、住民税として差し引かれることは当たり前」と、ごく自然な流れとして税金のシステムが成り立っているようにも思える。

税金について真正面から向き合ったときと、日常生活に溶け込んでいく税金をふと思いついたときとは何が違うのだろうか。

私は両者の違いの一つに「税金の使い道」を考慮しているか否かという点があると思う。

お金を払ったら、その分の対価が得られる。対価とは、サービスや商品のことだ。そして支払うお金の大きさに比例して、対価を得るまでにかかる時間は長くなる傾向があるようにも思える。数百円のアイスはレジに持っていき

お金を払えばすぐに食べられるが、数百万から数千万円にも及ぶ一軒家の購入となると土地や引っ越しなどについて様々な手続きが必要で、実際に完全に住めるようになるまでには多くの時間がかかるだろう。

しかし、これら二つの事例にも共通点はある。対価を得るのはお金を払った自分自身という点だ。自分がお金を払い手に入れたものだからこそ私たちは対価に価値を認識できる。

では、税金はどうだろうか。令和四年度の国の税金収入の合計は約六十五兆円だそう。これだけの大金が動いているのだから、私たちがその対価を得るまでに時間がかかり、更に、対価はお金を払った全国民が得ているため、それに対しての価値の認識が希薄になってしまふことは明白に思える。

私たちが当たり前前に税金を納めているように、税金もまた私たちの気付かないところで対価を与えているのだろう。私たちは私たちが思っている以上に根底で支えられている。

しかし、それを理解したとしても、現状税金の収入と支出両方で多くの問題点があることに変わりはない。先に挙げた議員の居眠り問題も、支出のほんの一部だが、それでも国民の代表として出席している以上、あってはならないことだと思う。

一介の学生が大言するのは身の程を弁えていないとは思いますが、私は、政府に税金制度に対する問題点を打破するための革新的な政策を行ってほしいことを期待している。税金の対価は測り知れないが、税と真正面から向き合うと必ず悪い部分も見えてしまう。税金というシステムに問題点が無くなることを期待し、これからも自分で考え、意思を持った上で社会に参加し税金と向き合っていきたい。

税金をもっと広い視野で

新潟県立長岡高等学校

二年 伊藤 千恵美

私には妹が二人いる。まだ小さいけど、よく喋る。ちょっと毛深いけど。

私は猫を二匹飼っている。ふわふわで、甘えん坊。ちょっとやんちゃだけど。気持ちよさそうに寝ているのを見るのが日課だ。

我が家の歴代の犬猫は、みんな保護された子たちだ。東日本大震災で元の飼い主が分からなくなった子、生まれつき尻尾が折れている子、妊娠していた保護猫が産んだ保護猫二世。我が家では彼女たちを私の妹として接してきた。一人っ子の私にとって、かけがえのない家族だ。

私たちはさまざまな場面で税金を払う。物心がついて初めて触れるのは消費税だろう。他にも、親たちは所得税、人によっては固定資産税や酒税、タバコ税まで払っている。これらの税金は、本来なんのためにあるのだろうか。

私の人生を軸に考えると、その答えに辿り着いた。私は今まで、ずっと公立の学校に通ってきた。保育園も公立だったのだから、十五年にも及ぶ歳月を長岡市と新潟県に委ねてきたらしい。私立の知見は皆無だが、私はこれまでの学校生活であまり不満はなかった。快適な空調、時代に合ったICT設備、そして無償の教科書。これらは全て、未

来を担う次世代のため、誰かが払ってくれた税金によるものだった。これを思い出したとき、税金は国の未来を見越したある種の投資だと思った。なんて素晴らしいシステムなんだ！

と、ここで私は終わらない。この大前提に、一石を投じたい。

私はこれを「人間の人間による人間のための税金」だと考えた。調べれば調べるほどこの思いは強まり、人間主体な考え方を改めるべきだと思うようになった。

というのも、猫たちの餌代には10%の消費税がかかる。だが、ここで「餌」を「餌」と定義することの根底には他の生物を「器物」とする法律があるわけで、だからこそ人間の食べ物に軽減税率の対象となるが他の生物には適応されないのだ。

今話題のSDGs。これは、人間だけでなく地球上の全ての生物を豊かにすることを目指す目標だ。税金という資源をうまく活用すれば、今まで以上に他の生命を救えると思う。

例えば、公共の道路や建物が他の生物によって汚された場合の清掃や、犬猫の殺処分をなくすための取り組みはどうだろう。そのために飼い主が一定の犬税や猫税を払うのはどうだろう。現に、ドイツでは犬税が財源として存在している。犬についての法整備も細やかで、犬と人間が共生できる街づくりが行われている。日本でも過去に存在したが、徴税コストや個体数把握の難しさなどの観点から廃止されてしまった。

新たなシステムを作るには多くの課題が出る。それは百も承知だが、私はやはり、そろそろ次世代に沿った新しい税金の形を模索するべきだと思う。子育て世代や高齢者への支援など、既にたくさん課題はあるけれど、私はもっと大局を見据えたい。税金が、より多くの命を救うためのものであることを願う。